

## NUFSA 留学生の家族のための日本語・日本事情コース

国際教育交流センターアドバイジング部門

木 内 喜 佐

「留学生の家族のための日本語・日本事情コース」は、名古屋大学に在籍する留学生の家族を主な対象とした名古屋大学留学生会主催のコースである。国際教育交流センターアドバイジング部門はコースの事務に関して運営に協力している。4月と10月の年2回開講し、インターナショナルレジデンス東山の地下会議室にて火曜日と木曜日の週2日、1時間半の授業をふたコマずつ行っている。昭和62年(1987年)に開講したこのコースは、平成26年(2014年)度で28年目を迎えた。近年は入門から中級まで4クラスを設け、今年度は前期53名、後期39名の受講生が在籍した。授業を担当するのは経験豊かな4人の日本語教師であり、授業の他にも校外学習やパーティー等の行事においても多大なご協力をいただいている。アドバイジング部門は教師たちと緊密な連携を図りながら、コースのさらなる充実や問題点の改善に努めている。

コースの運営資金は受講料の他に、名古屋大学留学生後援会からの補助金と名古屋栄ライオンズクラブからの寄付により成り立っている。名古屋栄ライオンズクラブからは平成6年(1994年)秋より継続的な支援を受けており、支援を受けた受講生の人数は今年度で延べ1,922名となった。開講式やパーティー、今年度からは授業時間内に行う「会話練習」へも会員の方々をお招きし、受講生との交流を深めていただいた。また、年に一度クラブの例会に2名の受講生をご招待いただき、受講生はスピーチにて学習の成果を披露している。

コースには幼児を抱える受講生も多く在籍し、彼らは受講中地域のボランティアグループ「ひろば」による託児サービスを経済的負担なく利用できる。近年では名古屋大学の学生や留学生もメンバーに加わりその活動をサポートしている。また、「ひろば」は授業外でも会話練習や各国料理を作る会を企画してくださっており、受講生にとって地域の方々との貴重な交流の場や地域社会との接点となっている。

今年度、コースの運営について変更した点が主に3

点ある。1点目は受講生及び日本語教師の団体保険への加入である。授業における事故や賠償等に備えて、公益財団法人スポーツ安全協会が提供する「スポーツ安全保険」に加入した。年間の掛け金は1名800円で費用はコースの運営資金より支出している。この保険により、団体活動中及び活動への往復中に万一事故等が起きた場合に補償を受けることができる。

変更点の2点目は秋の校外学習についてである。今年度より費用を寄附からではなくコース運営資金より支出することとなったため、バス旅行に替えて、日本の伝統文化に触れることができコストやアクセス面でも適当な千種区内の「古川美術館・爲三郎記念館」を訪問した。爲三郎記念館では抹茶と和菓子を楽しみながら伝統的な日本家屋と庭園を鑑賞した。同行した受講生の子どもたちはひろばの方々やアドバイジング部門のスタッフで世話をしたが、美術館で子どもたちが長時間過ごすのは難しく課題が残った。来年度以降は受講生が安心して参加することができるよう、大学内の日本文化のワークショップ等を検討し行事の見直しを図っていきたい。

3点目は、今年度後期に大学で採択されたプロジェクトの中で、授業のTAとして大学院生を採用した点である。日本語教育を専攻する修士課程1年の大学院生2名に、入門クラスの授業の補佐や会話のアシスタント、学期途中から加わった受講生のサポート等を担当してもらった。初めての試みではあったが意欲と実務経験のある学生を採用できた。

本コースは名古屋大学留学生会が主催するものであるが、名古屋大学の国際化推進の中で、大学として留学生の家族を支援する必要性が認識されてきており、コースのさらなる充実は継続的課題である。来年度はクラスの内容とコース編成を一部変更し、新たなテキストやプロジェクター類の導入も検討している。今年度の状況及び来年度の取り組みについては次頁の日本語教師からの報告をご参照いただきたい。アドバイジング部門としては、今後も受講生やコース関係者の声

を反映し、より充実したコースを目指して運営に協力していききたい。

---

### コース担当教師からの報告

このコースは、留学生の家族をサポートする目的で28年前に開設された。受講生の国籍や文化背景、目的意識は様々であり、その都度クラス編成や内容を組み替えるなどして対応している。

今年度後期には、TA（指導助手）を入門クラスで採用し、主に仮名文字の指導・会話練習の補佐をお願いした。TAが入ることにより少人数での会話が可能になり、受講生の発話の機会が増えるなど効果的な面がある一方、授業前の連絡や、授業後のクラス状況・習熟度の確認など、教師とTA間の連携がさらに必要であるなどの課題もみえてきた。

コース開設当初の受講生は主婦が中心で、日本語指導の他に生活支援や異国での居場所としての役割も担っていた。しかし近年は、短期滞在の受講生、研究員や留学生本人、また男性の増加など、受講生事情が多様化し、従来よりも実用的かつすぐに使える日本語

指導が求められるようになってきた。そこで来年度より新たな試みとして、入門クラスのテキストを、これまでの文法積み上げ式のものからサバイバル日本語中心のテキストに変更することとなった。これにより、来日直後から必要と思われる文型やフレーズが、従来よりもごく早い段階で提出される。また、プロジェクターの導入により今後はイラストや写真を多用した、実用的かつ積極的な発話を促す授業が設計できるものと考えている。

受講生の多様化により、クラス編成、テキストの選択、また学習目的の違う受講生が混在するクラスでの対応など課題も多いが、今後も関係各機関のご協力を頂きながら、学びの場かつ交流の場として受講生が積極的に参加できるコースを目指して努力していききたい。

NUFSA 留学生の家族のための日本語・日本事情コース

岩崎陽子

海老原千草（～2014年7月）

落合三恵（2014年10月～）

西松ひとみ（～2014年5月）

水野百々世（2014年6月～）

吉村智子